

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>. 理念に基づく運営</b></p>			
<p><b>1. 理念と共有</b></p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>平成20年12月に理念を掲げ、1年が過ぎました。地域の中で暮らしを支えていくサービスとして事業所独自の理念として「地域の中で信頼され、ふれあいのできるホームを目指します」を掲げ活動している。また額に入れ見やすい所に掲示している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員全員が理念を理解しており、理念を常に念頭に置きながら、毎月の全体会議、チーム会議、朝、夕の申し送り等で実践に向けて話し合い、取り組んでいる。個々のカンファレンスには、個人目標の中に取り組み確認できるようにしている。</p>	<p>目標の支援として地域参加への場の提供を行い、活動を広げ、地域とのふれあいを大切にしていきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>グループホームの地域への理念及び生活の様子などをGHだよりに掲載し家族に送付したり来設時に説明を行なっている。入居面接時にも説明を行い同意を得、また運営推進会議等でも説明している。</p>	
<p><b>2. 地域との支えあい</b></p>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>地元地域の一員として行事や地域活動等進んで参加し、また参加できるような場の設定をしている。近隣のグループホームうぐいすの里様や健生介護センター虹様と合同行事等で行き来しており、又地域の老人クラブにも所属し、毎月の定例会やつどいに参加している。顔なじみも少しずつ出来ている。また今年初めて弘前市総合福祉作品展にも出品し参加している。</p>	<p>気軽に来ていただけるような会を企画したり、雰囲気作りをしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>より迅速に対応し気持ちよく対応できるようにする。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>家族との会話、連絡は大事にし、密に連絡を取っていききたい。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>ご家族様同士が集まり、意見交換・交流を深める機会を作り、様々なご意見、ご要望を頂き、向上していきたい。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員で対応する事が大切であると考え、やめず離職する場合も、新たな職員を配置する時も、影響が出ないように利用者様にきちんと紹介し、ダメージを最小限にするよう努めている。</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症ケアでは、現場で働きながら学ぶ事で経験し、理解していく事が大切であると考えている。常にグループホーム内では職員が疑問に思っている事や向上のために勉強会を開催している。外部研修は、母体施設も含めて交代で参加し、全体で勉強会を開催している。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所と合同行事に参加しその時に意見交換や情報交換、及び他ホームの見学をするなどしてサービスの質の向上に努めている。また併設施設内の合同行事に参加したり、招いたり交流を図っている。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>取り組んでいる。環境づくりを大切に職員同士なんでも話し合えるような雰囲気作り、人間関係作りを意識して構築している。また勤務外でも、親睦会の機会を設け、ストレス発散等行なっている。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>現場で起きていること、課題、成果をしっかり把握する事で、努めている。勤務状況を把握することで、健康状態の確認をしている。個々の得意なものをのばし、向上心に繋げている。またスキルアップ(資格取得)が出来るよう支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談の際に利用者様、ご家族様から不安になるような事や、生活歴、大切にしている事など出来るだけお話しして頂き、入所前に理解を深め受け入れる工夫をしている。話やすい雰囲気を作り、こちらから受け止めるように努めている。また必ずグループホームの見学をしていただいて納得をして選んでいただけるよう配慮している。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時に希望や生活状況をお聞きし、当施設でのサービス内容をしっかりお伝えして、他のサービスで改善できるのであれば提案し、選択して頂くよう対応している。グループホームは、介護だけでなく、生活全般を支援していく為、ご本人様・ご家族様にとっての最善を検討するように、努めている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前、サービスを利用せず直接入居となるケースが多く、また利用者家族も即入居者希望の為、場の雰囲気に馴染めず入居になっている事が多い。入居後馴染めるよう家族と相談し工夫している。入居後もご家族やお知り合いの方に面会に来て頂き、安心して頂けるようお願いしている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と話をしたり、作業や行事の中で、喜怒哀楽を共にし、その方の意外な一面を発見したり、出来ない事を手伝ったり、悩みを相談したりすることにより支えあう関係を築いている。家族様の訪問の際、本人様の状況等を報告し、介護が上手くいかない時は相談しながら、ご家族様の力もお借りしてケアを進めている。</p>	<p>もっと多くの笑顔のあるホーム作りを目指したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	尊敬の気持ちを持ち、利用者様の立場を考え、共に活動することにより、共感し支え合う関係を築いている。来設時、家族と利用者と一緒に暮らしていた時のことや面会された時の様子など聞いている。逆に施設生活の状況を家族に報告している。職員は家族の喜怒哀楽を共感することができ、家族との関係が築けている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と話す機会を大切にして、本人と家族の関係が良くなるよう支援している。話しやすい雰囲気作りにも努めている。面会に来れない家族にも、暮らしづりがわかるよう近況報告の電話やグループホームだよりでつながりを継続できるよう努めている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人へ手紙を出す利用者もいるが、殆ど馴染みの場所や人を忘れていたので関係をつなぎとめておくことが難しい。		ふるさと訪問していきたい。
28 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の行動、言動をみながら状況に合わせて支援している。		
29 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等、面会や見舞いに行っている。また家族との継続的関わりを行い、相談等支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意向の伝えられる利用者には、随時意向を聞いてケアプランに基づき支援している。希望、意向の把握が困難な場合は、本人の立場になり、本人にとってよいと思えるケアを選択している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>相談員、家族、本人からの情報により、生活歴、馴染みの暮らし方の把握に努めている。また担当者は、生活の中で新たな情報について常にアンテナを張っている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>朝の毎日のバイタルチェックや排便、水分の把握をしており毎日の体調に合わせ、個別ケアにて支援し、できることを行なっている。また一日の過ごし方も把握しており、自由に過ごしていただけるようにしている。今までしてきた家事手伝いもできる範囲でお願いしている。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者様、ご家族様の希望を第一に、各スタッフが計画作成担当者との様子などを情報交換し、その人らしい生活を送れるよう介護計画を作成している。状態の変化があるときは本人が暮らしやすいように、本人、家族、関係者と話し合いの場を新たに設け意見交換し作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に介護計画の見直しを行なっている。対応できない変化が生じた場合、速やかに関係者と連絡をとり相談し、対応を図っている。その上で現状に即した介護計画見直し、作成を行なっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。ケース記録、健康チェック表、申し送り(業務日誌)に記載し、情報の共有をしている。特に気になる点は、個別記録にて状態把握を行い、実践や介護計画に反映している。		担当者は、特に意識して記録するようにしていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
36 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	サン・フラワーにおいてディサービスのトレーニングマシンやカラオケは共用で使用している。またお茶会や慰問観賞等の交流がある。		他部所の行事に意図的に参加を計画し生活に変化をもたせたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
37 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の総会にも出席しており、町会長、民生委員、老人クラブの会長、警察等と運営推進委員会議のメンバーとし、案内要項も必ず出かけお願いしている。地域の社会教育講座の参加や地域活動に参加し支援している。		これから施設として地域の方に民生委員を通し、ボランティアの協力をしたり、またお願いしたり、協働関係を深めていきたい。
38 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	話し合い、意見交換しながら支援している。本人や家族の希望にそって支援を行なっている。		
39 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議によく出席してくれている。その時はよい話が聞いている。家族からの質問や職員から質問、意見が活発に出されている。また必要性があれば、即電話で聞いたり、訪問し対応したり、連帯を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望、家族の希望を重視している。契約時、協力病院の話をし、納得を得られた時は、受診するようにしている。それぞれのかかりつけ医と信頼関係を築き適切な医療を受けられるように支援し、症状悪化防止に努めている。		重度化した場合の懸念など、家族と主治医を含めた意向を話し合うことができた。
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的受診の他、精神的不安定な状態になった時等、主治医に相談、助言を受けている。精神科医師や看護師と良好な関係を築いており、緊急時も即受診や電話等応じてくれている。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと契約を結んで、24時間連絡可能な体制をしており、週1回来設と週1回の電話必須とし入居者の状態報告、内服薬変更等伝えている。状態が安定していない利用者の対応方法について相談・助言していただき、また不安要素や状態変化があった場合、携帯電話等ですぐ連絡し支持を仰いでいる。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師や看護師等病院と密に連絡をとり情報交換を行い、早期に退院できるようにしている。面会に行ったり、家族と連絡を取り合ったり、精神的に支えられる所は支援し、グループホームでの受け入れ体制について可能か積極的に主治医と相談するようにしている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を作成。入居時、家族や本人と話し合いを持ち、方針を決めているが、重度化した利用者には、再度意向を確認している。管理者と職員と家族と本人とで話し合い、できること・できないことを一緒に考え、本人主体の前向きな話ができるようにしている。		六ヶ月に1回見直しし、カンファレンスにて家族、本人の意向を確認していきたい。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と相談し、重度化した場合や終末期の対応を本人、家族の意向を聞きながら、訪問看護師も入れて、事業所での支援可能な範囲を踏まえ話し合いの場を持って行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>必要な情報を提供する体制ができており、場合により職員が訪問する事も可能としている。家族や本人と十分な話し合いを持ち、住み替えによるダメージを最小限に食い止めている。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いや個人の尊敬を守ることに対して厳重な取り扱いをし、他者に漏洩することがないように努めている。また利用者の誇りを傷つけないよう、特に排泄面には、配慮できるよう相互で確認合っている。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自分で決めたり、希望を表すことを促す機会を日常的に行なっている。相手が理解しやすいことばがけを意識し表情や動きをよく見ながら、自己決定しやすい支援を行なっている。本人がしたいことや思いを素直に言えるように雰囲気づくりに気を配り、行なっている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の都合を優先しないよう努力している。極力、無理強いせず、本人の体調を確認し、本人が過ごしたいように過ごさせている。ただ一応生活のリズムがあるため、その時その時の声掛けは行ない希望に添って支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>外出、通院時希望に添い、職員と一緒に衣類を選んだり、化粧を手伝ったり、身だしなみを整える支援をしている。理美容は、本人の覚えている所や希望がないため、家族とも相談し来設美容を利用し切り方や何をするか希望を聞き行なっている。</p>		<p>おしゃれをする機会をもっと持ちたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように雰囲気等を配っているが、母体施設での調理となっている。どうしても食べたい希望の時は、行事の夕食に入れり、個別の買い物で対応している。できる人には、配膳、下膳等お願いし、片付けは入浴のない疲れていない日に、職員と一緒に洗い物等のお手伝いをお願いしている。		食べこぼしなどさりげない支援を心がけていきたい。
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の好みを職員が理解しているが、その都度確認している。月1回利用者と職員と一緒におやつ作りを行なっている。飲み物は、おやつに合わせて工夫し、リクエスト等取入れ楽しく飲んでいただき、お菓子や食べたいものは個別対応で買い物をしている。ただ病気の関係も有り(糖尿病等)職員と相談しながら対応している。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハパンや尿とり使用者には、排泄パターンを把握し、なるべく取替えを減らすように工夫している。皮膚の弱い方や、またふき残しの方もおり、不快な思いをさせたくないため毎日暖かいドビー等で清拭を行なっている。		オムツや尿とり等の使用が減る様支援している。
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、バイタルチェック後体調をみでの入浴となり併設施設の温泉を利用している。ゆったりとくつろげる支援を心がけている。またグループホーム内にも個浴室があり、希望があれば、また失禁時対応している。		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、活動に重点を置き、午前中は個別リハビリとして、本人のやりたい事や趣味を活かした活動を心がけている。またお昼は、お休みタイムとして自室で休んでいただいたり、共用スペースで寛いでいただいたりして。午後はレク活動で、皆と一緒にゲームやビデオ鑑賞、体操等取り入れ安眠に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る範囲で、お手伝いと称して役割を決め作業をして頂いている。その都度声がけし、出来るだけ一緒に行うようにしている。役割をお願いすることにより利用者の顔の表情が生き生きとしている様子が伺える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者全員ではないが、少しの買い物や外出には、多くは持たせないが、お金を所持していただき、使える場面を提供している。お金の使用については、本人の希望を聞きながら、買い物の際使えるように支援したり、買いたいものを聞き対応したりしている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調をみて対応するように努力している。ただ緊急での外出等は勤務体制もあり難しい時もあるが、外気にあたるように、庭の散歩や屋上へ行っている。また家族の協力もお願いしている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	他の利用者や家族とも出かけられる支援は行なっている。利用者との日常会話の中で、行きたい場所をさりげなく職員が聞きだしたり、リクエストしていただいたり、外出場所としている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者全員ではないが、希望する方や出来る方には、電話をしたり手紙を書くことの支援はしている。暑中見舞い、年賀ハガキ等入居者本人に書いていただいている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	明るく挨拶し、利用者と一緒にお茶を飲んでいただいたり、様子を伝えたり、部屋でゆっくり過ごしてもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員は身体拘束が良くないことを正しく理解しており、身体拘束は行っていない。またグループホームで勉強会を開いたり、マニュアルを作成し実践している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを目指して取り組んでいるが、非常口は、階段等あり危険な為鍵をかけている。出入り口は、なるべくかけないようにしています。その為併設施設を通ることもよくあり職員の協力と了解を得ている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に入る時は必ずノックをし、声掛けをしてから居室に入っている。夜間は音を出さないようドアの開閉に注意し、安否確認をおこなっている。昼夜通して利用者の所在の把握をし安全に過ごしていただけるよう配慮している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態変化により、注意の必要なものは職員が預かり、手元に置かない事も有る。異食行為、弄弁行為、精神的不安定にて取り扱いがわからないようになると、家族と相談し一時保管場所に入れて預かっている。医師と相談したり、ケア会議にて一人一人の状態を考慮し、対応している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態の把握に努め、勉強会を開いたり、事故防止間マニュアルを作成し、職員は事故防止のための知識、技術を習得している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回、母体施設で救急法の研修を行っており、職員は積極的に参加しており、技術習得に努めている。また緊急時対応マニュアルを作成しており、すぐ対応できるよう分かりやすいものになっている。24時間看護師への連絡体制も整備している。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、併設施設と合同の避難訓練をおこなっている。(うち1回は夜間想定非難訓練)。職員は利用者が安全に避難できるよう技術を得ている。また運営推進会議でも取り上げ地域の協力を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	毎日朝、夕の申し送りに状態変化を確認しそれに伴うリスクや防止策を話合っている。また電話や面会時家族に支援内容やその理由の説明し起こりうるリスクについて理解を頂いている。月1回のグループホーム会議時必ず一人ひとりのリスクを話し合い抑圧感のない暮らしを大切にしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝健康観察を行い、体調変化に気をつけている。おかしいと思う場合は、訪問看護師、管理者に報告相談し速やかに対応している。		
71 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の付き添いは交代で行なっているため、常に一人ひとりの内服の内容は、把握しており、医師に状態報告を行なっている。またケース記録の後方に、薬局から届いた薬表を綴っている。内服薬変更時はその都度、業務日誌またケア記録に記述し朝、夕、申し送り時必ず状況報告する。朝、昼、夜、定時薬は、飲み込みまで確認し、症状の変化にも気をつけるよう心がけている。		
72 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘の早期対応に努めている。食事量、特に水分量に注意を払い、便通のよくなるお茶を出したり、腹部マッサージを行ったり、運動を支援したりしている。		
73 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの支援を行なっている。必要な利用者に対して歯磨きの仕上げを行ったり、義歯の洗浄介助を行ったり、無歯の方には、うがいの声掛けの支援はおこなっている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分摂取量を記録し把握している。脱水防止のため、水分摂取は十分確保している。また個々で持っている疾患の悪化防止のため食事や間食にも気を配っている。水分の取りたがらない利用者には、ゼリー対応を肥満傾向や糖尿病を発症している利用者には、食事量の調整を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルあり、毎日の手すり、イス等の消毒し予防につとめている。 インフルエンザやノロウイルス対策の外出のマスク着用、手洗い、うがいは頻回におこなっている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前の手の消毒、使用した器具の消毒は、その都度行なっている。冷蔵庫や水周り、洗面台等週1回は必ず消毒、洗浄を行ない食中毒防止につとめている。食材は賞味期限の確認、適切な温度下で保管している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇には、花が植えてあり、季節感はあるものの、親しみやすい玄関の工夫が足りない。		親しみやすい玄関の工夫をもう少し利用者と一緒に考えていきたい。
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に不快な音はないものの、テレビやラジオ、職員の会話のトーンに気をつけるよう心掛けている。窓は大きく風景が楽しめるようになっているが、日差しの眩しい時はカーテンで調整している。手作りのものを飾ったり、絵や飾りで季節感を味わうように工夫している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が向かい合って話しが出来るように座席の配慮をしている。またテーブルだけでなく、ソファもあり、寛いで話が出来るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>馴染みのものも少ない部屋もあり、本人、家族と一緒に工夫してみたい。</p>
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者を良く理解し、なじみの関係に基づいたケアを基本とし、希望に添った個別ケアを進めてきています。